

報道関係各位		発信年月日	令和7年11月25日	送付枚数	4枚
担当部課名		担当課長名		担当者職氏名	連絡先電話番号
文化スポーツ推進課		課長 原田貴順		不二輸送機ホール 館長 川崎 浩美	(0836) 71-1000
件名	「第20回山陽小野田市民文化祭短歌大会」の結果について（訂正）				
内 容					
表題について、11月20日にお知らせしたところですが、一部誤りがありませんでしたので、訂正して送付いたします。					
短歌大会 開催日 11月9日（日） 開催場所 山陽小野田市民館					
1 一般の部（別紙1） ・応募者数 自由題 24名、題詠恋 19名 ・応募数 自由題 24首、題詠恋 19首 ・入賞等 自由題 入賞 4首、賞外推薦 5首 題詠恋 入賞 1首、次席 1首					
2 児童生徒の部（別紙2、3） ・応募者数 1, 179名 ・応募数 1, 179首 ・入賞等 入賞 5首、入選 20首					
※添付資料による訂正箇所はありません。					

第20回（二〇二五）山陽小野田市民文化祭短歌大会選歌結果

《自由題》

山陽小野田市市長賞

西村玲子

窓を開け風をよびこむアクアライン遠くに霞む北斎の富士

東京湾を横断するアクアライン。海上をドライブする様が身体感覚として感じられる上句に加えダイナミックな下句に魅了された。結句の「北斎の富士」で実景のおぼろな富士に重なって北斎の鋭角的な富士が浮かび上がりシニール。（鈴木千登世）

絶景ともいうべき光景に出会った感動が爽快に表現されている。東京湾から神奈川方面に移動する車中あの富士が見えた。北斎の「神奈川沖浪裏」を思わせる結句に作者の興味関心も伝わってくる。上句の動作と下句の景がアクアラインを支点に世界を回転させる。（高崎淳子）

山陽小野田市議会議長賞

平川和子

敵機過ぐ芋の畑へと一目散ひもじをぢ等は鉄鉢に拾ふ

敗戦八十年の今年、記憶をあらたにすることも多い。直接の経験ではなくとも、戦争体験者の語る事実や物語を映画のワンシーンのように表現している。上句の敵機と下句の鉄鉢はテツの同音ながら相対し、具体物としての効果を發揮している。ひもじいことが最も苦痛だったと分からせる。飽食とフードロスの時代への批判も感じさせる。（高崎淳子）

山陽小野田市教育長賞

松永 進

やけのはま
焼野浜夕焼けワインに射し込んでその色美し友は絵に描く

「日本の夕陽百選」に選ばれている焼野浜は山陽小野田市の名所の一つである。地名を上手く読み込んで、夕焼けの美しさを想像させ、ワインに射し込む色の美しさに絵を描く友の存在感を浮かび上がらせ、ゆたかな情景を表現している。（高崎淳子）

山陽小野田市文化協会会長賞

新山清美

幼き日海にあそんだ思い出は浮き輪の中の心細さよ

海水浴と言えば「楽しい」が常なのにこの作品では具体的かつ個人的な思いが語られリアリティーがある。浮き輪と言う安全なものに縋りながらも、大海にひとり浮かぶ不安が水の冷たい感触とともに読み手に蘇ってくる。（鈴木千登世）

賞外推薦歌

《鈴木千登世選》

七歳に引揚げし地の記念館訪ねて思う今ある生を
目をそらし介護と笑い差し出す手ぶこつで温し石段登る

西本美恵子
高原登美子

風鈴の涼音にぎやか境内に老若男女のかしわで響く

谷岡計甫

《高崎淳子選》

御巢鷹の尾根より聞こゆ“上を向ういて”九ちゃん同じ年だったよね
花は散るから美しと目を開けぬ祖母を撫でても納得はできぬ

生田洋子
高松克志

《題詠恋》

和泉式部賞

高原登美子

あの恋が愛にかわって気が付けば夫に寄り添い銀婚の秋

結婚して二十五年。その歳月に若い日の瑞々しい恋はゆつたりとした深い愛に変わって行った。仲睦まじい夫婦の有り様が下句から伺われる。なめらかな調べとびたりと決まった結句。韻律も味方に付けた魅力的な作品。（鈴木千登世）

次席

山根彌生

音もなく数多のハトがペアとなり暁の空に飛びたちゆけり

和泉式部の「暁の恋」を題にした歌の中に「夜もすがら恋ひて明かせる暁は鳥のさきに我ぞなきぬる」がある。それとは違う現代的な暁を鳩の景で詠っている。（高崎淳子）

第20回山陽小野田市民文化祭短歌大会

〈児童生徒の部〉

【入賞】

山陽小野田市教育長賞

面を打つ心がひとつに響き合い竹刀の音が夢呼び覚ます

小野田中1年今本綺莉香

山陽小野田市文化協会会長賞

秋の田でこがねの作物風なびきカカシの頭の鳥の鳴き声

高千帆小6年 古谷隼大

山陽小野田短歌会賞

秋風のアシストうけてシュート決めあいぼうのパスたよりにしてる

有帆小3年 仲野礼真

真夜中の大運動会ねこ兄弟ぼくが起きるとすぐ知らんぷり

出合小5年 杉山蓮音

準備終えあの子目指してまっしぐら「今日暇？」「うん暇！」約束成立

埴生中2年 廣岡千桜

【入選】

外に出てふと上見るとゆらゆらと舞い落ちていくハナミズキの葉

高千帆小6年 吉永悠喜

ヒロシマの原爆ドーム見ていると悲惨な景色頭に浮かぶ

高泊小5年 吉久空杜

星月夜「田中」と叫ぶ友の声なんじゃもんじゃ最高の夜

高泊小6年 村上希愛

今のおれ未来のおれにいつてやれなつてみせるぞサッカー選手

小野田小6年 田中陽翔

若い芽が葉になるために雨打たれその芽と私いつか花さく

小野田小6年 古谷桃里

秋分やひつつき虫が芽吹いてと友にひつつけ自画自賛かな

須恵小6年 内海冬羽

鏡見てポーズしんぱんかつこよくヒットを打つぞ大谷みたいに

赤崎小5年 中島 岳

ぼくたちは経験したことたよりすぎ学んでみれば楽しみみつかる

本山小6年 塚本爽真

帰り道友に悪いが上の空また聞く話鳥が一声

厚狭小4年 一宮 紗

小学校最後の夏の水泳でとうとう泳げた二十五メートル

厚狭小6年 奥村 湧

たのしみは飛行機乗って海外にチームの勝利分かち合う時

厚陽小6年 ガルシアペレス
アドリアン

秋の夜にやさしく照らす月明かり心静かに夢を紡ぎぬ

埴生小6年 白石 丞

船の上当たり待っても反応のない竿を見て溜息募る

高千帆中3年 金藤悠真

おにぎりを落として三秒拾ったら中身のしゃけがいなくなった

高千帆中3年 矢田善哉

冒険へ麦藁帽子投げ捨てて虫籠揺らして走る夏の日

小野田中2年 中尾真翔

月曜日君のあくびに入っていた宇宙の端の眠れぬ理由

小野田中3年 三笠大雅

下校中ふと空見上げ驚いたともだちと見る虹の架け橋

竜王中1年 杉原彩芽

朝起きて窓から見えるすずめたち元気に鳴いて今日も平和だ

竜王中2年 棟久さくら

自民党海外ばかりを優先し日本のことはどうでもいいのか

竜王中3年 西本健人

卓球のラケット一つ味方にし勝利の道は自分で決める

厚陽中2年 森本勇斗